

がんセンターたより

重粒子線治療の開始に向けて

重粒子線治療管理室長 大川原 和男

放射線治療の一つである重粒子線治療が 12 月からスタートします。

平成 17 年 3 月、神奈川県「がんへの挑戦・10 年戦略」に重粒子線治療施設の導入が位置付けられ、以来 10 年余、この間、県立病院の地方独立行政法人化や東日本大震災の影響による整備の遅れ等もありましたが、プロジェクトは着々と進められ、世界で初めてのがん専門病院併設型の重粒子線治療施設として治療への一歩を踏み出します。

重粒子線治療は、炭素イオンを光の速さの 70% のスピードまで加速し、からだの奥のがん細胞に照射します。このため、正常な細胞を傷つけにくく、副作用が少なくなります。また、重粒子線は他の放射線と比べて、がんを殺傷する能力が強いことから、今までの放射線治療が効きにくかった肉腫などの難治性のがんに効果があります。

現在、治療装置の調整や治療システムの試験・検証、スタッフのトレーニングなどの準備が重ねられており、今後、国の医薬品医療機器等法による承認（旧薬事承認）と横浜市の許可を待って治療開始となります。当センターとしては、まずは先進医療を取得するための臨床試験を先行させ、国からの先進医療の認定を受けたのち、順次、各がんに対する治療を開始していく予定です。

がん対策は、治療・研究に加え、予防や共生といった視点での取り組みが求められており、医療機関は質の高い医療を通じて、患者さんの生活の質の向上を図っていく必要があります。がん治療に対する総合的な機能を有する県立がんセンターとしてのメリットを生かし、安全で高精度な重粒子線治療を行い、患者さんに優しい医療を提供していきたいと考えております。



重粒子線治療施設 i-ROCK



治療室



加速器室

ベトナムからの研修医

カー先生とアン先生の研修日記 — 研修を終えて —

平成26年7月に締結したベトナムのダナンがん病院との相互交流の協定に基づき、約2か月半(7月11日～9月23日)研修生の医師2名を受け入れました。(病院ホームページに“カー先生とアン先生の研修日記”掲載中)

- ・呼吸器外科医師 Dang Nguyen Kha (ダン・グエン・カー) 氏 男性 35歳
- ・血液内科医師 Nguyen Dang Quynh Anh (グエン・ダン・クイン・アン) 氏 女性 29歳

■カー先生の感想

日本では、ベトナムでは見たことのない手技を学ぶことができました。例えば、葉間を分けないで行う肺葉切除や、いくつかの複雑な区域切除です。これらはとても新鮮で興味深く、さらに第一助手で手術に参加して目の当たりにでき、それを手術記事とスケッチに描くことができました。また呼吸器外科の仲間たちは親切で優しく、知識を新たにすることができました。日本で過ごす間に新たな友人を得、観光地も訪れ、今回の訪問が有意義なものとなりました。今回の経験は今までに経験した中で最も有意義なものであり、熱意をもって接してくれた神奈川県立がんセンターの多くのスタッフに感謝いたします。これからもベトナムの若手研修生に、機会が与えられますよう希望します。

■指導医から見た研修の様子(呼吸器外科部長 伊藤 宏之)

カー先生は卒業して10年の呼吸器外科医なので、すでに技術知識、経験も持っていました。外科医はどの国でも気質は同じで、言葉よりも先にまずは見て理解し、体が動き覚えます。解剖の理解や手技のコツなどの飲み込みは速かったですね。彼が日本で驚いていたことの一つは区域切除術です。肺葉切除は肺癌の標準術式ですが、日本では小型・早期・多発癌が多く見つかるため、残存肺容量を多くする目的でこの術式の頻度が増えています。複雑な区域切除を何度も見る機会があり、大変興味深かったようです。さらに連携の良いチーム医療や、呼吸器グループのカンファレンスなど日々驚きの連続だったようです。夜はまた、日越の交流を深めるべく何度も呑み交わし、国籍も言葉を超えた、外科医に共通した感性に驚きました。

ベトナムでは、日本で当然のように使っている自動縫合器などは非常に高価なので、気軽には使えません。その分彼は技量でそれを補っており、手技は素晴らしかったです。見聞きした技術を母国に伝えたいとの熱意を強く感じました。



呼吸器外科(左から)

伊坂医師、松崎医師、中山副院長、カー研修医、伊藤部長、永田医師、古本医師

■アン先生の感想

日本での医療研修は私にとって大変よい機会でした。日本人は友好的で親切というのが第一印象です。言葉の違いは大きな壁ですが、血液学の知識や治療経験について神奈川県立がんセンターのスタッフから十分に教えてもらい、私にとって大変有益でした。週末には病院スタッフが観光に連れて行ってくださり、日本の文化や料理も紹介していただきました。心あたたかい、ホームシックを解消してくれる、このようなおもてなしに大変感謝しています。

■指導医から見た研修の様子(血液内科部長 金森平和)

この度、神奈川県立がんセンターとベトナムのダナンがん病院との間で医療人材の交流に関わる覚書を締結したことを受けて、第一陣として血液内科にアン先生をお迎えしました。医療制度から病院食に至るまで異なる両国間での交流は刺激のかつ有意義であり、何よりも医療にかかわる真摯な態度に感銘を受けました。日常会話はもとより患者カンファランスも英語によるコミュニケーションとなり、スタッフのスキルアップにも役立ちました。また、ベトナム人と笑いのツボも似ていて、大変親近感を覚えました。2か月余りの研修期間でしたが、このような機会を与えていただき、関係各位にこの場を借りてお礼を申し上げます。



血液内科(左から)

田中医師、根来医師、アン研修医、金森部長、藤井医師、青木医師



平成 26 年度

患者満足度調査の結果をご報告いたします。

平成26年12月に、患者さんへの満足度調査を実施いたしました。

入院患者さんには、12月1日（月）～12日（金）の2週間で、670名の方にアンケート調査票を配布し、396名の方から回答をいただきました。

外来患者さんには、12月1日（月）、4日（木）の2日間で、1000名の方にアンケート調査票を配布し、965名の方から回答をいただきました。

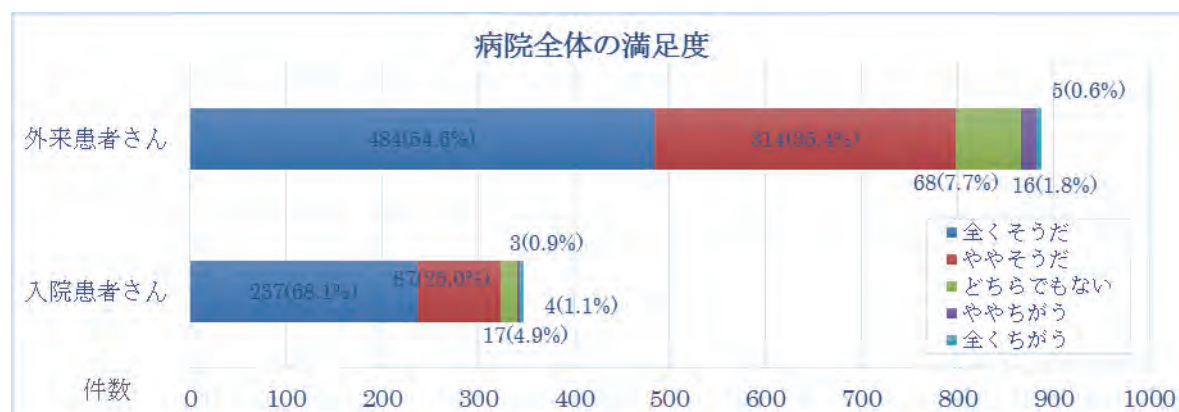
病院全体の評価は、入院が外来より満足度が高い結果となりました。

調査項目別では、入院中の診療や医療スタッフ及び具体的な治療については概ね満足はいただきましたが、会計や施設・設備・情報提供に関しては十分に満足いただけていない結果となりました。

アンケート調査にご協力をいただいた患者さん、ご家族の皆様にお礼申し上げます。

1 病院全体の満足度

「全体的としてこの病院に満足している」の設問に、「全くそうだ」、「ややそうだ」と回答した割合は、入院患者さんが93.1%、外来患者さんが90.1%と高い結果となりました。



※ 回答数は、アンケート調査票を配布し、有効な回答として回収した数。

2 病院全体の評価（最大値：10点）

項 目	外来	入院
病院に満足している	7.1	7.9
病院を信頼している	7.5	7.9
家族、知人に勧めたい	6.9	7.5
医療サービスを高めるために、努力し向上している	6.8	7.7

3 患者満足度調査項目別集計結果（最大値：10点）

項 目	満足度
外来	
診察前(紹介、待ち時間、待合室環境)	5.4
診察や医療スタッフ(医師の診察、看護師の説明・処置)	6.5
検査(尿検査、血液検査、CT、MRI、レントゲン、処置・説明)	6.9
施設・設備・情報提供(診察室、院内設備、がん相談、情報提供)	5.6
会計(順番が公平・長く待つ、請求書、職員対応、自動清算機)	4.8
総合評価(病院全体)	6.9
入院	
入院時の説明等(医師説明、入院手続き、入院中生活説明)	6.6
入院中の診療や医療スタッフ(医師の説明・診療、看護師の説明・処置、介助等)	7.5
入院中の具体的な治療(検査、薬剤師・栄養士の説明・指導、手術、リハビリ)	7.2
施設・設備・情報提供(トイレ・浴室、病室内環境、エレベーター・階段、食事、がん相談等)	6.5
退院(退院説明、会計)	6.1
総合評価(院内仕組み、病院全体)	7.7

※満足度の考え方

各設問の回答項目「まったくそうだ」、「ややそうだ」、「どちらでもない」、「ややちがう」、「まったくちがう」の回答者数に対し、それぞれ10点、5点、0点、－5点、－10点を掛け、満足度を回答数で割った平均の数値。

欧州胸部外科学会

呼吸器外科レジデント 永田 仁

今年 5 月 31 日から 6 月 2 日にポルトガル、リスボンで開催された第 23 回欧州胸部外科学会総会に中山副院長、伊藤呼吸器外科部長とともに参加しました。

今学会は心臓血管外科以外を対象とし、我々呼吸器外科医が興味を持つものが多くあります。年々大規模となり、欧州以外にもアメリカ、アジアの参加者が多くありました。

私は術前の BMI 値と CRP 値が喫煙者における肺癌術後生存リスク因子である旨の口頭発表をしました。私のつたない英語もなんとか伝わったようでした。伊藤先生は他葉に浸潤する肺癌の予後解析と適切な T stage の設定に関する発表をされました。

肺癌外科治療が議題の中心であり、最新の情報を学び、日本の著名な先生方と会場やレセプションの場でお話する貴重な機会も得ました。移動に丸 24 時間かかったポルトガルでしたが、滞在中は天候に恵まれ食事もおいしく、さらに有意義な時間となりました。

最後に今回の機会を与えていただいた県立病院機構、がんセンターに深く感謝致します。今回学んだ事を励みにさらに成長していきたいと思っております。

学会 報告

国際がん看護学会

3 S 病棟 主任看護師 古田 智恵

今回、私は国際がん看護学会に参加する機会をいただき、カナダのバンクーバーへ行ってきました。バンクーバーは都会の中にも緑が多く、とても過ごしやすい気候でした。

学会では、言語もままならない環境であり、実際に発表内容を把握することは困難でしたが、41 カ国から約 400 名の参加者があり、それぞれのテーマに沿って各国の看護師達がディスカッションしている姿をみていて、異なる国や環境の中でも患者さんへの看護に対する思いは共通なのだと感銘を受けました。日本の方がポスター発表をされている姿はとても頼もしかったです。各国の参加者は、英語でコミュニケーションを図っており、英会話を習得できたらどれだけ楽しいかと感じました。

国際がん看護学会は毎年、開催国が変わり、来年は香港だそうです。世界中から集まってきた人々と、自分の看護を語り合える場に、機会があればぜひみなさまにも参加して欲しいと思います。

今回、私は親孝行目的も兼ねて母親との旅でしたが、緊張と不安の学会参加をサポートされていたのは私の方でした(笑)。



欧州胸部外科学会にて

左から 永田医師、中山副院長、伊藤呼吸器外科部長



国際がん看護学会 グランビルアイランドにて

2015 ★ イベント報告 ★

■ 看護の日・看護週間記念行事（5月8日～15日）

5月12日は「看護の日」。5月8日～5月15日には看護の日・看護週間記念行事を開催しました。今年も看護師によるアロママッサージ、多職種によるポスターセッション、三行詩など、たくさんの催し物を患者さん・ご家族の皆さんに楽しんでいただきました。特に毎年大好評のコンサートには180名近い患者さん・ご家族が参加して下さり、クラシックの名曲の優雅な演奏に酔いしれていました。（看護教育科 田中久美子）



■ 一日看護体験（7月24日）

7月24日（金）、看護師の役割や仕事への理解を深め、今後の進路を考える機会となることを願って、高校生や一般の方を対象に1日看護体験を開催しました。多数のご応募の中から、今年度は16名の方にご参加いただきました。参加者からは、「実際にユニフォームを着たり、患者さんのもとへ行くことが出来てとても良い体験になりました。」「明るく素敵な病院だと思いました。」「1日看護体験をして、改めて看護師になりたいと強く思いました。看護師目指して頑張ります！」と、嬉しい感想を頂きました。患者さんや看護師との関わりで、参加者みなさんが目をキラキラと輝かせていたことがとても印象的で、私たち自身も癒されました。また来年、皆様のご参加を心よりお待ちしております。（看護教育科 紫藤 綾）



■ かながわサイエンスサマー行事 科学教室「染色体に触れてみよう」（8月19日）

昨今の青少年の「理科離れ」に対する取り組みとして、神奈川県では毎年夏に県の試験研究機関、県内の博物館、科学館、大学、企業の研究機関で科学講座や体験教室などを通して若い世代に科学に親しんでもらう企画「かながわサイエンスサマー」を実施しています。がんセンター臨床研究所でも8月19日に中・高校生を対象とした科学教室「染色体に触れてみよう」が開催されました。人間はおよそ60兆個の細胞からできています。染色体は細胞一個一個の中にあって、遺伝子の本体であるDNAを保持してDNAの遺伝情報を読み出している装置で、染色体の異常はがんの原因ともなります。

今回の参加者（抽選）は中学生20人・高校生1人でした。過去（メンデル）から現在（iPS細胞やネアンデルタール人ゲノムの解読）に至る遺伝子・DNA・染色体研究のトピックスを紹介する講義とともに、参加者には顕微鏡による細胞や染色体の観察、そして題目の通り細胞からDNAを取り出す実験をしてもらい、染色体にかかわる科学を体感してもらいました。アンケートの結果では多くの参加者に「染色体とはなにか」を理解していただき、また実験も楽しんでいただけたようです。これが将来の医学を発展させる研究者を育てる一助となれど願っています。（臨床研究所 主任研究員 菊地慶司）

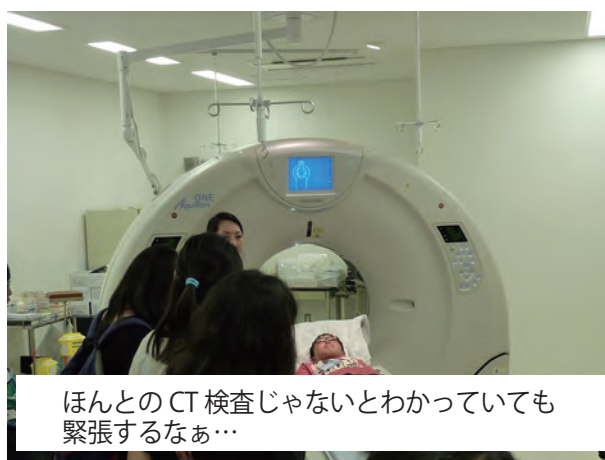


■ かながわサイエンスサマー行事 君もレントゲン博士！ 第2弾（7月26日）

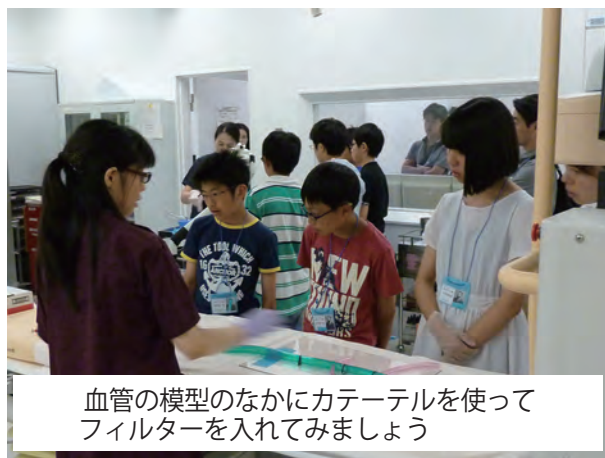
中学生を対象に昨年初めて行った、画像診断・IVR について楽しみながら学ぶ体験的な勉強会「君もレントゲン博士」が好評であったので、今年も第2回を開催しました。募集25名程度としていましたが、41人の申し込みがあり、今回も全員受け入れることにしました。そして39人の中学生と付添の父母17人が7月26日の日曜日に5階の講堂に集合しました。

簡単なレクチャーのあと4班に分かれて、X線診断、CTとMRI、IVR、3D画像処理の4つのコースを1時間ずつ順に巡りました。身近な物をX線透視で観察、箱に入れた積み木の形を2方向の画像から推理するクイズ、CTの寝台に寝てみる、MRIの強磁場の中でアルミの円玉がどう動くか、IVCフィルターの留置と回収、血管内異物をカテーテルで捕捉する、超音波ガイドの血管穿刺、ワークステーションで3DCT画像を加工してお腹の中の様子を観察することなどを実習しました。そして最後には放射線被曝と防護、医療被曝についてのミニレクチャー。今回も盛りだくさんな内容でした。

今回のアンケートでも非常に好評で、楽しく勉強できたという声が寄せられました。昨年にも参加した方が2人今年も参加され、「去年よりパワーアップしましたね」との声も寄せられました。兄弟での参加もありました。休日を返上して指導役をしてくれた放射線診断・IVR科の医師、放射線診断技術科の技師も、大変な一日でしたが、画像診断・IVRの大切さと面白さを中学生の心に植え付けることができたのではないかと思います。参加者、見学された保護者、医師、技師の皆さんに感謝です。（放射線診断・IVR科 吉田哲雄）



ほんとのCT検査じゃないとわかっていても緊張するなあ…



血管の模型のなかにカテーテルを使ってフィルターを入れてみましょう

■ ブラックジャックセミナー（8月22日）

7回目、ブラックジャックセミナーと名前を変えてから4回目のキッズセミナーが、今年もまた暑い日に開催されました。新しい病院になってから2回目です。午前中には、子供を連れたなじみのスタッフが、家族にお仕事場の案内がてら体験に来ていました。おおよそ80人、みなさんとても嬉しそうでした。

午後1時から県内の小学校高学年から中学生を中心に、申し込み約60名のうち選ばれた約32人の子供たちが集いました。毎年人気が高く、今年もまた抽選です。本村院長の話に続き手術衣での記念撮影の後にセミナーを開始します。本物の針糸を使った縫合実技、内視鏡手術シミュレーター、練習器、本物の自動縫合器を使ったファイヤー発声練習、手術室のお仕事体験、超音波メスでの鶏肉切除術、最強の放射線治療の体験実習を行いました。最初は緊張した面持ちだった子どもたちですが、すぐに笑顔と驚きの声に変わりました。子供もそうですが、引率の親御さんたちも食い入るように見つめる目と、真剣な顔つきで実習に臨んでいました。修了の際に中山治彦副院長は、チームが一丸となるには、あいさつと感謝の気持ちが大事だと力説されていました。全くその通りだと思います。

来年は内視鏡手術シミュレーターの一部はロボット手術支援シミュレーターとなる予定です。（呼吸器外科 伊藤宏之）

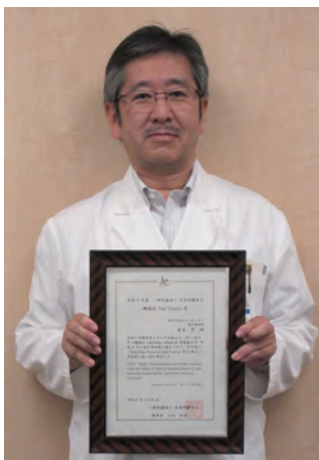


日本肝臓学会

「High Citation 賞」を受賞して

消化器内科（肝胆膵）部長 森本 学

平成 27 年 5 月に開催された日本肝臓学会総会において、機関英文誌 Hepatology Research の本年度 High Citation 賞を頂きました。これは 1 年間に被引用回数が最多であった論文の筆頭著者に与えられるものです。論文内容は、肝がん初の分子標的薬 sorafenib に関する多施設共同研究（当院および神奈川県内 3 大学病院）の検討で、本邦の sorafenib 実臨床成績としては最も早い報告として引用回数も多かったと思われます（Hepatol Res 2011;41: 296-302）。



新任医師の紹介

職員の異動がありましたのでご紹介します。
よろしくお願いします。



医療技術部長
（臨床検査担当）
古田 耕



放射線治療部
放射線腫瘍科
部長
野中 哲生



放射線治療部
重粒子線治療科
部長
野宮 琢磨



病理診断科
医長
大久保 陽一郎

平成 27 年度 神奈川県立がんセンター

臨床腫瘍セミナー

「がん臨床講座」を引き継いで、今年度から「臨床腫瘍セミナー」を開催いたします。

予定表をご覧ください、興味あるテーマがございましたら是非ご参加ください。

また、院外の方で参加をご希望される場合は、事前にご連絡をお願いします。

会場 神奈川県立がんセンター
管理研究棟 5 階 大会議室
時間 18 時～ 19 時
対象 医療関係者
連絡先および問い合わせ先
神奈川県立がんセンター 企画調査室
電話 045-520-2267（直通）

平成27年度 神奈川県立がんセンター 臨床腫瘍セミナー 予定表

日付	曜日	テーマ	所属	講師名 (敬称略)
平成27年				
9月 7日	月	シリーズ「臨床疫学-研究デザインの知識から生物統計の基礎まで- ①」 研究に必要な研究デザインの知識	がん予防・情報学部	成松宏人
14日	月	シリーズ「臨床疫学-研究デザインの知識から生物統計の基礎まで- ②」 RとEZRを使った統計演習 1	がん予防・情報学部	成松宏人
24日	木	シリーズ「臨床疫学-研究デザインの知識から生物統計の基礎まで- ③」 RとEZRを使った統計演習 2	がん予防・情報学部	成松宏人
10月 7日	水	腫瘍病理概論	病理診断科	河内香江
21日	水	Preclinical Study から Proof of Concept への橋渡し - FDA への IND 申請を経験して -	治験管理室	瀧田盛仁
11月11日	水	がん生物学② がんの代謝・ストレス環境の生物学	がん分子病態学部	宮城洋平
18日	水	緩和医療概論	緩和ケア内科	太田周平
25日	水	がん生物学① がん浸潤・転移の生物学	がん生物学部	越川直彦
12月 2日	水	わかっておもしろいせん妄 -その病態と対応-	精神腫瘍科	横尾実乃里
9日	水	FDG-PET・CTの基礎知識と当院での現状	放射線診断・IVR科	堀川 歩
16日	水	薬剤関連顎骨壊死について	歯科口腔外科	光永幸代
平成28年				
1月13日	水	最新の放射線治療	放射線腫瘍科	野中哲生
20日	水	がん免疫療法の現状と展望	がん免疫療法研究開発学部	笹田哲朗
27日	水	皮膚トラブル対処法	皮膚科	山本晃三
2月 3日	水	分子標的療法概論	腫瘍内科	酒井リカ
10日	水	化療後末梢神経障害の漢方治療	東洋医学科	林 明宗
	水	Oncology emergency	腫瘍内科	高崎啓孝



あゆみ園のカブトムシ 2015夏

昨年の夏、職員からプレゼントされたカブトムシは、卵を産み、幼虫からサナギ、そして成虫へとすくすくと成長していきました。

職員が伺ったこの日は、子ども達がちょうど餌のゼリーをあげていました。餌をあげることは子ども達の日課のようで、楽しそうにカブトムシと触れあっていました。



いのちは紡いでいくということ、幼いながらも感じとってもらえた経験となったのではないのでしょうか。カブトムシに餌のゼリーをあげています。

カブトムシ博士の答え発表!!

(がんセンターだより Vol.58 参照)

総務課熱血マン 宮坂さんでした!!



僕もこの1年間で立派に成長しましたよ。(笑)

(総務課)

編集後記

本号のトップページは施設建設総工費 118 億円をかけた i-ROCK (重粒子線治療施設) の稼働開始のお知らせです。一人でも多くのがん患者さんが、最先端治療の恩恵に浴することを願っています。世の中と同様に、当がんセンターもめまぐるしく動いています。『一葉落ちて天下の秋を知る』・・・この感性があれば、将来のがんセンターを想像することが可能でしょうが、凡人には簡単に出来るものではないですね・・・。(企画情報部長 金森平和)

編集・発行：神奈川県立がんセンター 企画調査室

〒241-8515 横浜市旭区中尾 2-3-2

TEL 045-520-2222 (代表)

<http://kcch.kanagawa-pho.jp/>



ボランティア会ランパスによる患者さんのための 10月・11月・12月 木曜ミニコンサート予定表

時間：午後 1 時 30 分～2 時 (約 30 分)

10月 1日	合唱	サーティフォー
10月 8日	ピアノ・声楽	青山瑠美子 中野亜維里
10月 15日	声楽	岡野雅代
10月 22日	合唱	コールダンヘル
10月 29日	ハーモニカ・アンサンブル	あすなろ
11月 5日	声楽	斉藤範子
11月 12日	ピアノ	神谷ゆりえ
11月 19日	ピアノ	鮫島明子
11月 26日	ビオラ・ピアノ	マリエリカ
12月 3日	ミュージックベル・フルート	カリオン
12月 10日	クリスマスコンサート	
	声楽	小島美恵子
	アンサンブル	テタールの会
12月 17日	声楽	三縄みどり



平成 27 年度 1 日平均患者数

区分	4月	5月	6月	7月	8月
入院	347.1	320.9	352.4	350.5	351.3
外来	929.7	971.6	913.5	915.3	874.4